

Forefront Technologyアカデミー

1)このアカデミーの狙い

ABC協会では、2015年度に「Yet Another IoT」アカデミーをスタートさせました。すなわち、革新技術を利用することで産業構造を大きく変化させ、絶対的優位を確立しようとする動きが欧米で顕著になっています。モノをインターネットに接続し膨大なデータを収集するビジネスモデルの追求ではなく、そこから一歩進んで、「モノの賢さ」(モノを賢くすること)で生み出される価値にシフトすべきです。「サービスはモノを通じて提供される」という視点に立って、競争優位性のあるサービスとそれを支えるモノを同時に考案する事が必須な時代になっています。しかしながら、これを可能にする人材が不足しているのが実態です。このアカデミーでは、モノに賢さを導入するとどのようなビジネスチャンスが広がるかを検討していく過程で人材を育成し、従来はAIやIoTとは無関係と思われたビジネス領域にさえ、大きな競争力向上の機会が存在することを明らかにすることを目的としています。

その後は、名称は「Forefront Technologyアカデミー」と変更しましたが、この考え方を継承してまいりました。インターネットやIoTはシステムの構成要素のひとつでありAIを含め多くの新技術をこれからは活用せねばなりません。その意味での広い機能の概念を表したものにしたいと考えております。このアカデミーでは、テクノロジーと謳っておりますが、決してテクノロジーを論じる場ではありません。最先端技術について、参加される経営層の方が、どのようなスタンスで臨まれ、それをどう咀嚼されているのか、それを自社のビジネスにいかに取り入れようとするのかを、お互いを知っていただくことも、大きな狙いの一つです。ここにこのアカデミーのもつもう一つの狙いがあります。

2)参加企業

■アドバイザー

初田 賢司氏 (株) 日立製作所

システム&サービスビジネス統括本部 プリンシパル

■参加企業(19社参加)

アサヒグループホールディングス株式会社

味の素食品株式会社

EY新日本有限責任監査法人

インテル株式会社

ANAシステムズ株式会社

株式会社オカムラ

株式会社JTB

住友林業株式会社

ソニー生命保険株式会社

東京ガス株式会社

学校法人東京理科大学

有限責任監査法人トーマツ

日鉄ソリューションズ株式会社

日本ハムシステムソリューションズ株式会社

株式会社ハレックス

ユニアデックス株式会社

株式会社リクルートホールディングス

一般社団法人アドバンスト・ビジネス創造協会

3)進め方

■開催日程(隔月開催、奇数月の第3水曜日)

- 第1回 7月17日(水) 16:00～19:00
- 第2回 9月18日(水) 16:00～19:00
- 第3回 11月20日(水) 16:00～19:00
- 第4回 1月15日(水) 16:00～19:00
- 第5回 新型コロナの影響により、延期(時期未定)
- 第6回 新型コロナの影響により、延期(時期未定)

■開催場所:アイオス五反田・本館会議室

141-0022 東京都品川区東五反田1丁目10番7号

■開催形式

180分の前後半の2部形式

(1)前半90分:講師による講演

(2)後半90分:講師を交えて、ゼミ形式の質疑応答と
各社の実情を踏まえた意見交換

4)2019年度の実施概要

■第1回『人工知能は社会をどう変えるか』

～人の幸せのためのテクノロジーに向けて～

【講師】矢野 和男様

株式会社日立製作所 フェロー

兼 未来投資本部ハピネスプロジェクトリーダー 理事

博士(工学) IEEE Fellow 東京工業大学 情報理工学院 特定教

【講演概要】

人工知能が注目されている中で実はビジネスの成果はまだこれからである。ビジネスの成果につながる人工知能のために何が必要かを解き明かす。14分野60案件を超える実適用のユースケースを使い、今後を展望する。

■第2回 『脳科学と人工知能の融合が創る

新たなスマートカンパニーとスマートビジネス』

【講師】萩原一平様

株式会社NTTデータ経営研究所 エグゼクティブ・オフィサー

【概要概要】

脳科学と人工知能の融合、さらに5Gの導入によるIoT、IoH等の進化により、新しい社会、ライフスタイルが起こりつつあります。このような中、海外のグローバル企業においては脳科学、心理学、行動科学等の研究やその成果のビジネスへの活用が進んでいます。また、世界トップレベルの名だたるビジネススクールでも、脳科学をカリキュラム等に組み込んでいます。一人ひとりの異なる欲求、ライフスタイル等を満足させるマスパersonライゼーション、その実現に向けた新たな社会インフラの構築には、個人ごとに異なる脳を知ることが求められます。一人ひとりの脳を知り、脳に聞き、AIを活用して脳を満足させる取り組みが、今、求められています。本講演ではその一端をご紹介するとともに、その産業応用についてお話し致します。

■第3回『アナリティクスで生まれ変わる気象情報ビジネス』

【講師】藤岡 浩之様

株式会社ハレックス 代表取締役社長

【講演概要】

我が国においてはゲリラ豪雨などの自然災害の脅威に常にさらされており、日常か

ら気象の変化を予見して備えをすることは、住民の安全確保や企業の事業継続の観点で重要であり欠かすことはできません。また、企業や店舗等が気象とマーケット動向の関係性を効果的に活用し、顧客数や販売数を最大化して売上や利益を確保することも、技術的に可能な時代になりました。これまで気象庁等の情報に基づき、自社の知見・ノウハウを活かして気象や地象に関する予報や情報を分かり易く伝えることを主な役割としてきました。一方、今日では気象庁や研究機関等の予報技術レベルが飛躍的に向上し、それに伴い取り扱う情報も常に進化し、情報量も膨大化しています。また、お客様のニーズも時代と共に多様化し、民間気象会社に期待される役割はより大きく変化しつつあります。新しい価値創造を追究してまいります。

■第4回『経営重心で企業の事業ドメインを分析する』

【講師】若林 秀樹様

東京理科大学大学院教授 経営学研究科 技術経営専攻主任

【講演概要】

経営重心分析とは、サイクルとボリュームの2軸で、事業ドメインを定義し、経営スピードや事業の広さ、事業ポートフォリオ等を定量的客観的に評価できる。特に、IoT時代は、異業種同士が繋がる時代でもあり、M&Aや、異業種との連携、新事業への多角化で、そのポートフォリオが大きく変わる。その中では、これまでの跳び地がコアになる場合もある。また、そういう異分野・新分野と従来のコア事業との繋がり方が付加価値の源泉になる。国際競争力の視点からも、経営重心分析におけるジャパンストライクゾーンの考え方は、有効であり、アカデミックからの関心度も高い。経営重心は、2012年にMOT学会で発表、2015年に出版して以来、業界から、多くの反響を呼び、東芝やシャープ、JDI等、電機業界の動向を予見した。MOTの講義やゼミでも、学生から注目されている。本講義では、そのエッセンスを、幾つかのケースと共に、紹介し、議論の叩き台にしたい。

第5回、第6回は、新型コロナの影響により、延期(時期未定)。

以下は予定稿である。

■第5回『テクノロジーによる変革と機会の到来』

【講師】住 隆幸様

東京海上ホールディングス株式会社 事業戦略部部長

【講演概要】

保険+テクノロジー。保険業界に巻き起こったデジタル化の波はますます速度と勢いを増している。ビッグデータ、AI、IoTなどの新しい技術によって、既存の保険業界のバリューチェーンが形を変え、より人々や企業の潜在的なニーズにあったサービスプラットフォームの構築や、革新的な商品の開発が続々と進んでいる。かつてない業界の大転換点に直面し、東京海上グループが描くビジョンとは？業界の未来を担うイノベーションへの挑戦がすでに始まっている。

■第6回『人工知能とロボットの融合』

【講師】西村輝一様

株式会社 人工知能ロボット研究所 代表取締役

【講演概要】

画像の分類において深層学習が人を超える能力を示し、第三次人工知能ブームを引き起こしています。この人工知能技術とロボットが融合し、人間の活動に貢献していくにはどのような課題があり、それにどう対応すべきかについて研究事例をもとに解説いたします。